

実践的指導力向上研修

教諭 阿部大輔

1. はじめに

秋田県採用8年目となり、公私交流を経験したり、卒業生を送り出したり、特別活動部主任や高野連理事を経験したりなどと、時間に追われることが多かったものの、様々な経験を積むことで自身の視野や考え方なども広がってきたと感じている。この8年目に、センターの研修講座を受講し、今までの振り返りと教員としての在り方や生徒との関わり方、今後の指導改善などについて考えることができた。今回の実践的指導力向上研修の受講を通して考えたことや学んだことをまとめていきたい。

2. 研修内容

(1) 実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）Ⅰ（令和元年7月5日、教育センター）

今回の研修は①事例を通じた生徒理解と対応、②学校の組織の一員として－自己理解に基づく目標設定－③カリキュラムマネジメント（CM）の3点について研修を行った。

①の事例を通しての演習では、生徒行動の背景について、多面的に考え検討することの大切さを再確認することができた。②では、自分の強みと苦手分野を整理することができた。その分析を基に「アウトプットの機会をより増やし、考えを深化させていく」という目標を立ててみた。今後活かしたい。③ではCMが求められている背景やその理念を中心に研修を行い、CMを検討していく際にはPDCAのCから進めた方が取り組みやすいとのアドバイスを頂いた。また、日頃からPDCA視点を取り入れる大切さやこれからの教員には社会との繋がりを一層強く持つ必要性があることを再確認した。

(2) 実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）Ⅱ（令和元年9月20日、教育センター）

今回の研修では各自が持ち寄った指導案をアクティブアイで見直す作業を行った。授業を計画する際や授業見学する際に活用したい視点である。しかし、この視点ばかりが先行しないように、理念や概念について確認しておくことの大切さにも気づいた。

また、授業評価は授業をより良いものにするためのツールであって評価することが目的にならないようにすることにも気をつけなければならない。最上位目的はいったい何なのかを常に自問自答しながら業務にあたる必要性を再確認できた。

3. 今後に向けて

研修を通して、「日々の指導や業務は何を目的としているのか」と改めて考える機会になった。最上位目的はいったい何なのか、を念頭に入れて行動することで、業務の取捨選択、行事における指針や選択など明確に判断できるようになってきた。Society5.0 社会を迎えるにあたって、最上位目的を常に意識して日々の指導や業務に取り組みたい。